須賀川市立義務教育学校「稲田学園」学園だより

稲雲（とううん）

令和７年度 第 13 号

令和７年 10 月 31 日発行　　発行者：校長　田中　朗裕

○「秋華祭」が大成功で幕を閉じました！

１０月１７日（金）に、本校の文化祭である「秋華祭」を実施しました。例年は、土曜日の開催としていましたが、今年度は週末に家族で過ごす大切な時間を確保していただくことをねらいとして、平日開催としました。午前中は開祭式・学年発表・有志発表、午後は音楽部の発表・閉祭式という日程で実施しました。学年発表は、笑いあり、感動ありのステージで、前期課程のダンスや７～９年生の演劇や学習した内容についての発表を楽しむことができました。音楽部の発表には、多くの児童生徒や先生方のサプライズ出演があり、会場が一体となって盛り上がりました。今年度のテーマは「青瞬～一瞬の今を楽しもう～」でしたが、子どもたちはこれまで積み上げてきた努力を自信と力に変えて、「一瞬一瞬」を楽しみながら、一生懸命な姿を見せてくれました。ご来賓や保護者の皆様にもたくさんご臨席をいただきながら、大成功で感動の一日を終えられたこと、児童生徒の一生懸命さとひたむきさに感動と感謝でいっぱいです。

○「稲田っ子ブランド　ドライトマト」が完成しました!

５・６年生が夏休み中も水やりや脇芽取り、除草作業を続けながら育てたトマトが、J-RAP さんのご協力をいただき、ドライトマトになりました。そして、１０月１５日（水）に、ドライトマトの袋詰め作業をしました。最初に自分たちがデザインしたシールを袋に貼り付け、グラム数を量って袋に詰めます。今回は、「ふるさと納税」の返礼品用として１０g 入り、１１月９日（日）に「Rojima」（須賀川市役所前）での販売用として８g 入りの２種類を作りました。最後に袋に封をして、商品の説明が書かれたシールを貼ったら完成です。６年生は「生産者」としての意識をもちながら、トマトの栽培やこのプロジェクトに込めた思いも一緒に袋に詰めている様子でした。このプロジェクトもいよいよ集大成の時期を迎えます。これまでご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

○今年度も「本松明」が完成しました!!

１０月２５日（土）に、「本松明」の製作を行いました。松明づくり協力会と保護者の皆様のご協力をいただき、今年も無事に「本松明」が完成しました。雨が降る肌寒い１日でしたが、９年生を中心に後期課程の生徒たちも一生懸命に活動をしました。途中で須賀川市長様と教育長様から激励の言葉もいただきました。閉会行事では、生徒会長からお礼の言葉が述べられ、伝統を受け継ぐことの大変さを実感しながらも、「完全燃焼」という「松明あかし」当日の目標も語られました。あとは出発式と本番を残すのみとなりました。

○音楽部が市長報告を行いました!

１０月２４日（金）に、須賀川市役所において、本校音楽部の２つの全国大会出場についての市長報告を行いました。全国大会に向けて、部長からは「出場するからには、全員で『最高賞』を目指してがんばりたい。」、副部長からは「今までの練習や努力を信じて、悔いのない、そして楽しめるステージにしたい。」という力強い抱負が述べられました。生徒たちが堂々と自分の気持ちを語る姿はとても立派で、自信にあふれていると感じました。最後に、市長様や教育長様からも激励の言葉をいただき、大会までの残りの期間で、本校の音楽部が更なる進化を遂げるきっかけをいただくことができました。

随　想　想像を遥かに超える子どもの力　～秋華祭の閉祭式でのこと～

秋華祭の閉祭式で「テーマ」「シンボルマーク」の考案者の表彰がありました。本校の表彰集会は、表彰を受けた後、表彰された感想や表彰されるまでにがんばったこと、そしてこれからの抱負などを自分の言葉で全校生に向けて発表する形をとっています。だから私は、表彰される２人の生徒にいつも通り表彰後に話をしてほしいとお願いしました。考案した時の思いや願い、今日の児童生徒の様子を見てどうだったかについて話してほしいとお願いしました。生徒は少し戸惑ったような表情を見せましたが、快く引き受けてくれました。

そして迎えた閉祭式の表彰の時、２人の生徒が児童生徒会長から表彰を受けた後、児童生徒に向かって話し始めました。私は「突然のお願いだから、緊張もするだろうし、言葉に詰まってしまったらどうしよう。」と心の中で思っていました。しかし、生徒たちは堂々と、そして全校生の当日のがんばりを称えながら話をしてくれました。私の想像を遥かに超えて、自分の言葉で、自分の学年に向けて、全校生に向けて、更には実行委員に向けて感謝の気持ちを伝える姿とその内容にとても驚き、感動しました。２人の言葉で「がんばってよかった！」と思い、自信になった児童生徒がたくさんいたと思うのです。やっぱり子どもたちには、すごい力があると強く感じた出来事でした。